

# 上越市の人口動態

上越市 企画政策部 企画政策課

令和4年5月31日

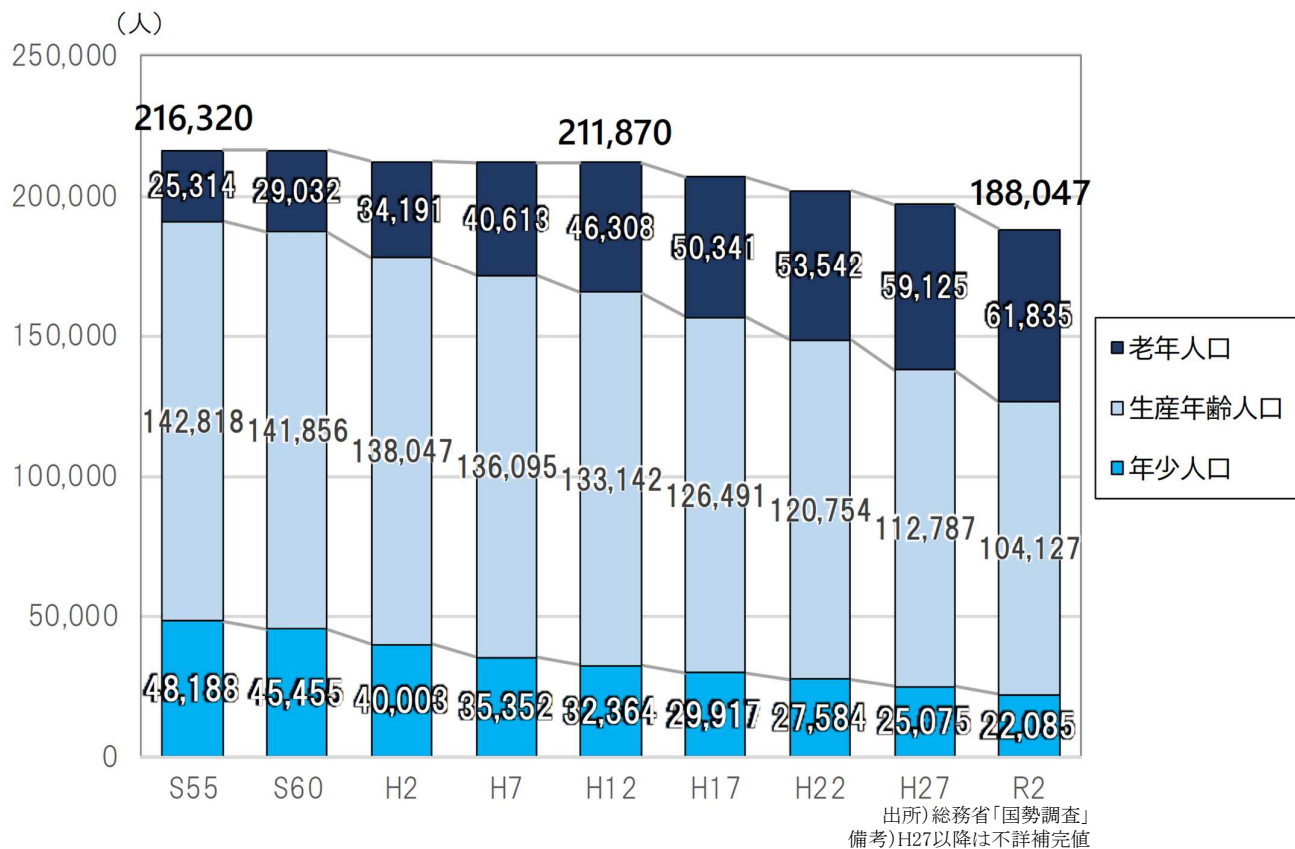
# 目 次

<b>1</b>	<b>これまでの人口の推移</b>	
1-1	上越市の年齢別人口の推移	3
1-2	上越市の年齢構成の推移	3
1-3	上越市の人口動態の推移	4
<b>2</b>	<b>出 生</b>	
2-1	合計特殊出生率の推移	6
2-2	上越市の年齢別出生率の推移	6
2-3	年齢別出生率の比較 (R2)	7
2-4	上越市の若年女性人口の推移	7
2-5	上越市の婚姻件数の推移	8
2-6	30代後半の独身割合の推移	8
2-7	上越市の30代後半の独身割合の推移	9
<b>3</b>	<b>死 亡</b>	
3-1	上越市の年齢別死亡数の推移	11
3-2	上越市の高齢者人口の推移	11
3-3	平均寿命の推移	12
3-4	上越市の死因別死亡数	12
<b>4</b>	<b>転 入 ・ 転 出</b>	
4-1	全国都市圏別の人口増減率の推移	14
4-2	県内自治体の転入超過の状況 (H28-R2)	14
4-3	上越市の年齢別社会動態の推移	15
4-4	上越市の性別・年齢別の転入出の動き	15
4-5	上越市の地域別社会動態の推移	16
4-6	上越市の地域別の転入出の動き	16
4-7	東京都からの転入数の増減率 (R1→R3)	17
4-8	上越市の理由別社会動態	17
4-9	産業別新規学卒者 (大卒) 給与額 (R2 男性)	18
4-10	産業別新規学卒者 (大卒) 給与額 (R2 女性)	18
4-11	産業別就業者割合 (H27 30代以下男性)	19
4-12	産業別就業者割合 (H27 30代以下女性)	19

# 1 これまでの人口の推移

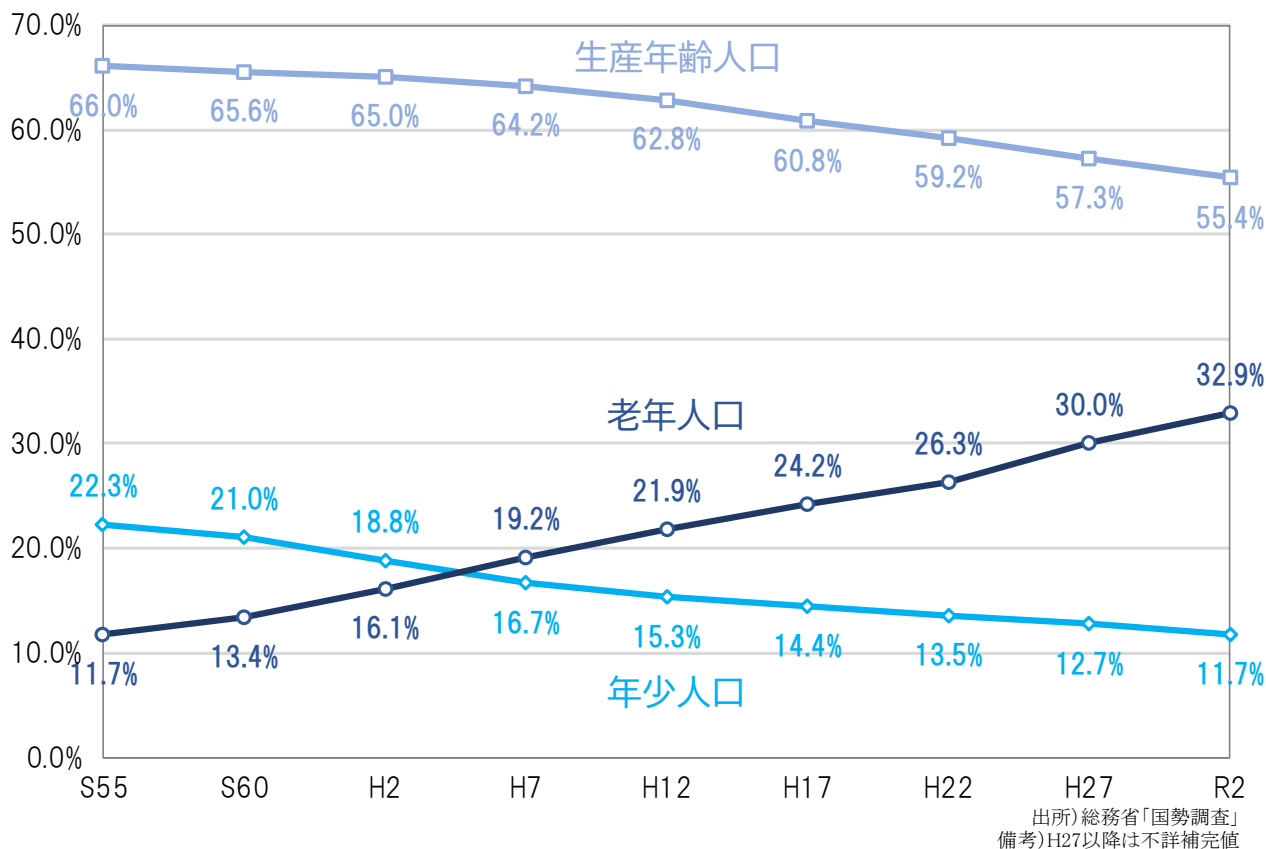
---

# 1-1 上越市の年齢別人口の推移

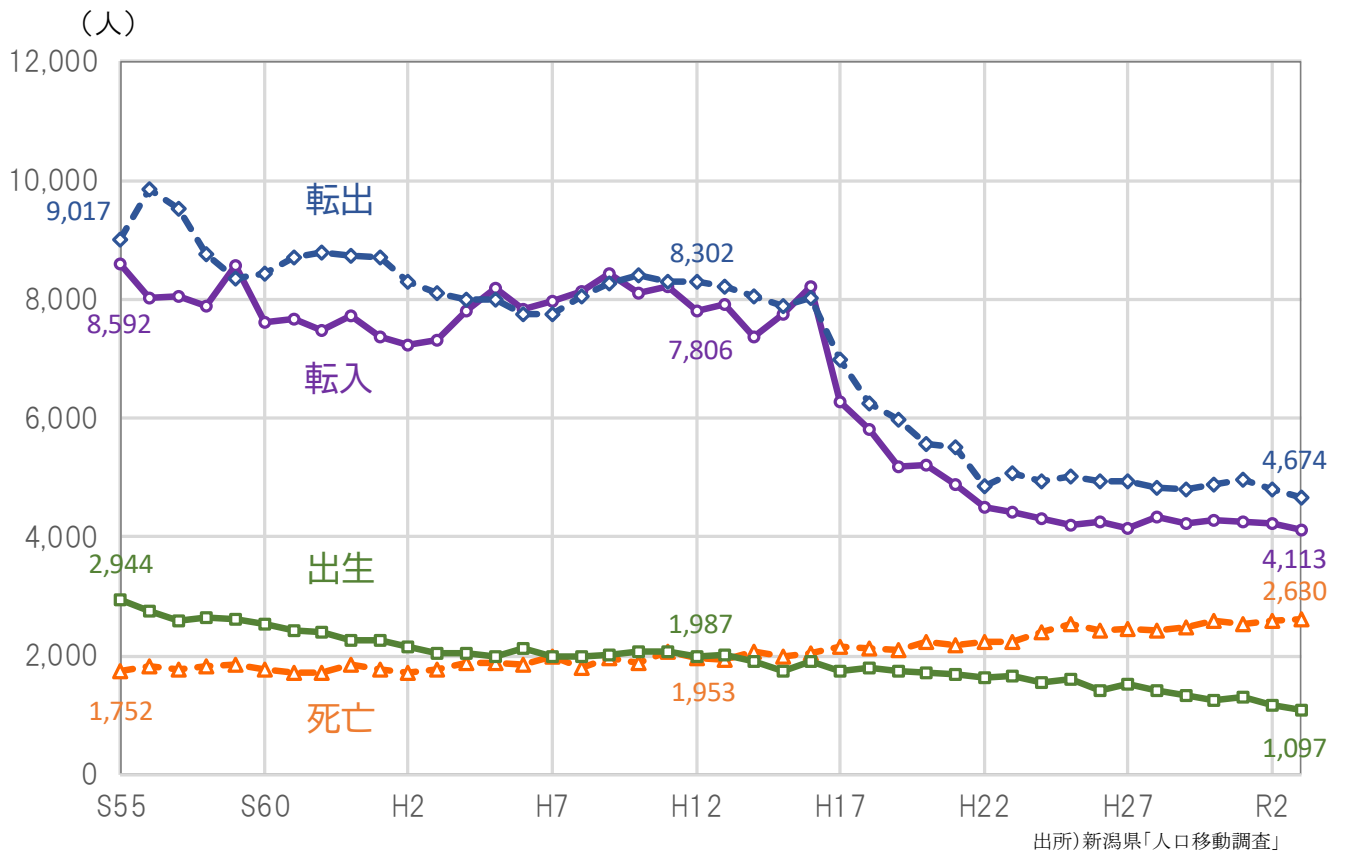


平成12年頃から人口減少が加速(以降20年間で約1割減)  
老年人口(65歳以上)が増加する一方、65歳未満は減少

# 1-2 上越市の年齢構成の推移



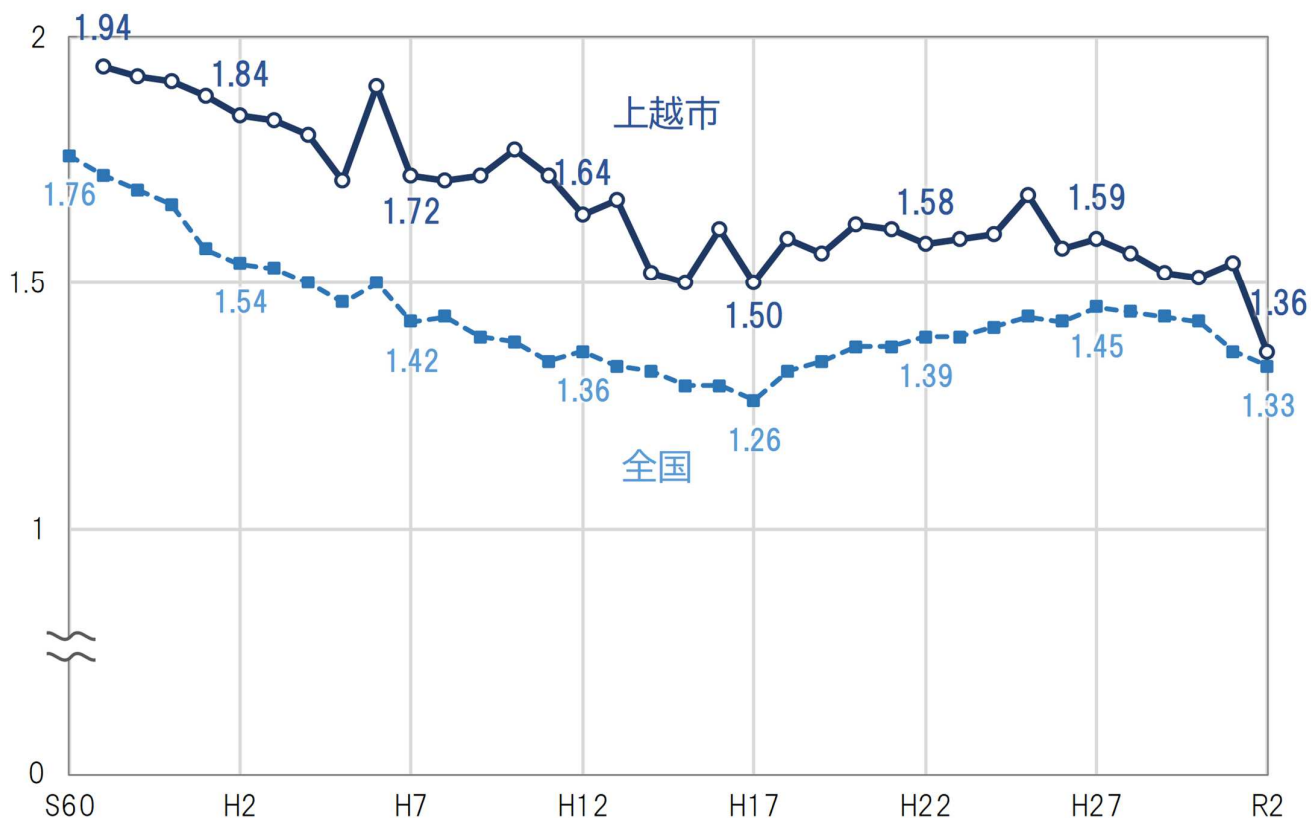
老年人口の割合(高齢化率)はこの間上昇(令和2年時点で1/3が高齢者)  
生産年齢人口・年少人口はともに減少が続く



平成13年に死亡が出生を上回り、以降その差は拡大傾向  
 転出が転入を上回る状況が継続(一時的な経済状況の変化による例外を除く)

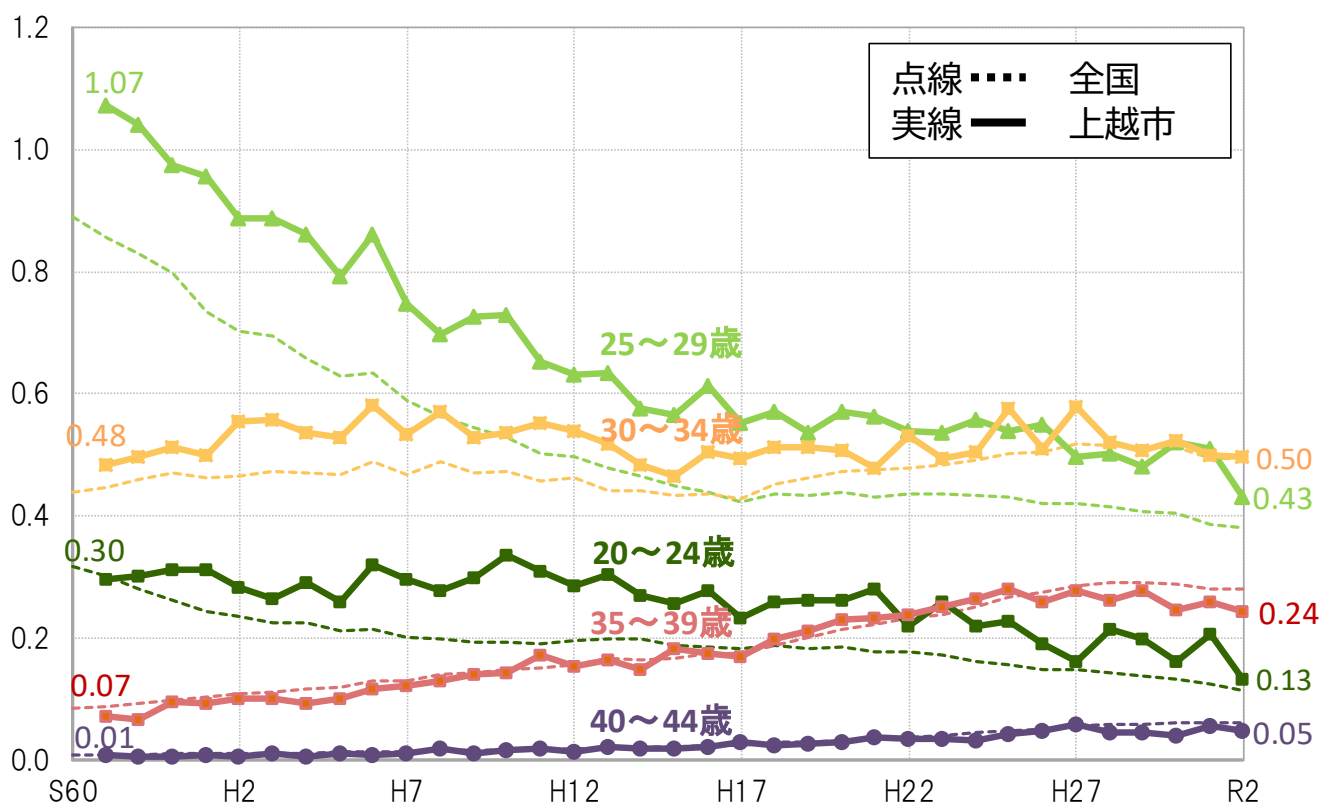
# 2 出生

---



出所)厚生労働省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」

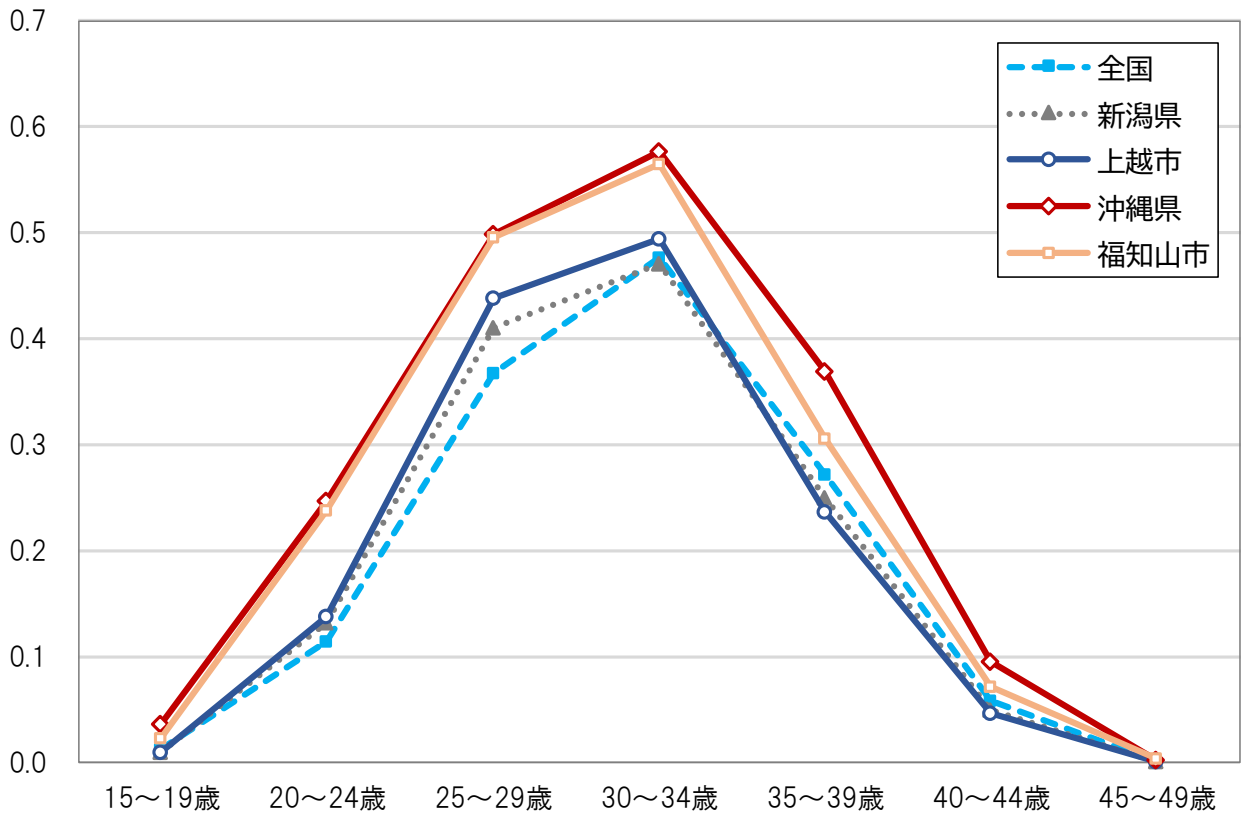
平成12年頃から上越市は横ばいで推移(ただし令和2年は減少)  
2.07を下回ると転入出の差がゼロでも長期的には人口減少



出所)厚生労働省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」

20代後半の出生率が大きく減少  
30代後半の出生率は増加傾向だったが、近年は横ばい

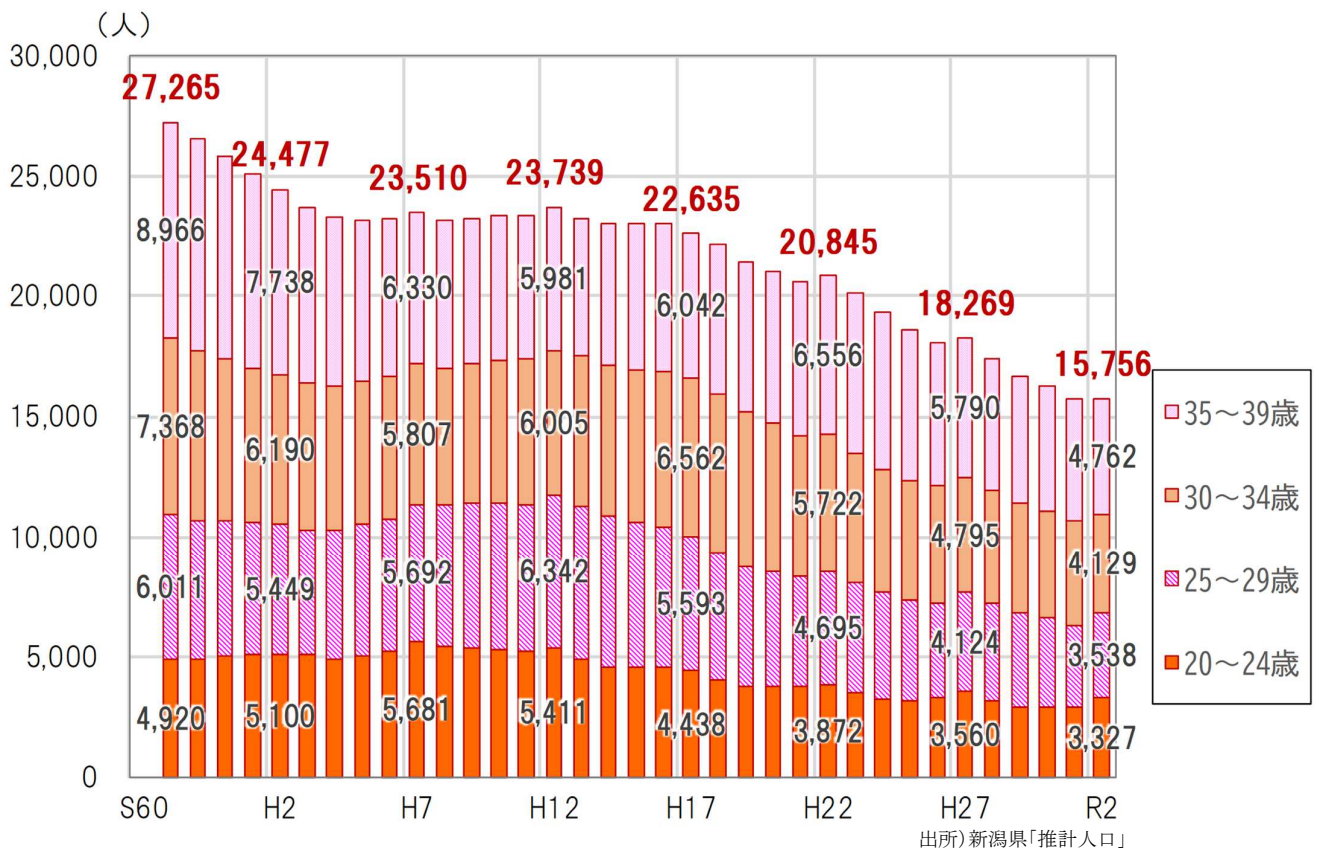
## 2-3 年齢別出生率の比較(R2)



出所)厚生労働省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」

全国に比べると20代後半の出生率がやや高い  
出生率が高い地域と比べ、特に20代・30代の出生率が低い

## 2-4 上越市の若年女性人口の推移

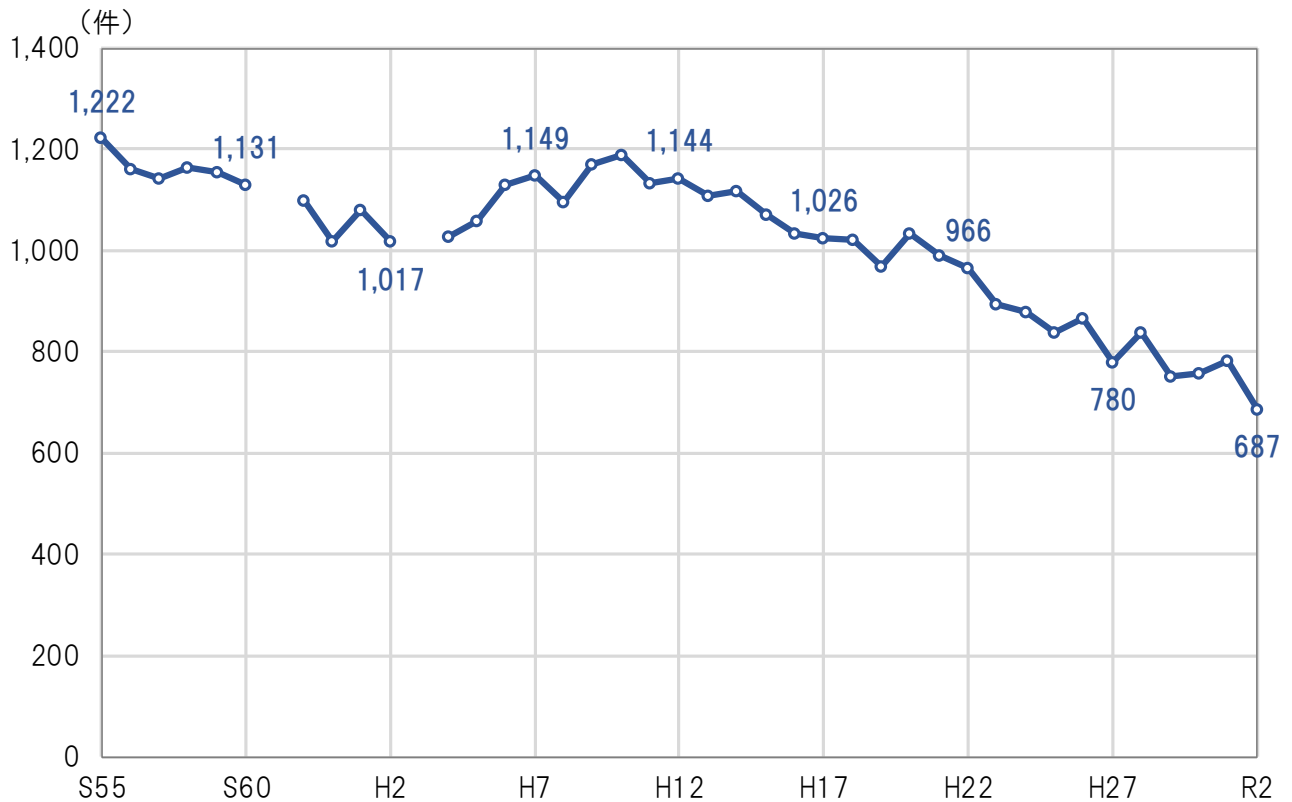


出所)新潟県「推計人口」

20代~30代の女性人口は減少が続く  
出生数が減少している要因の一つ



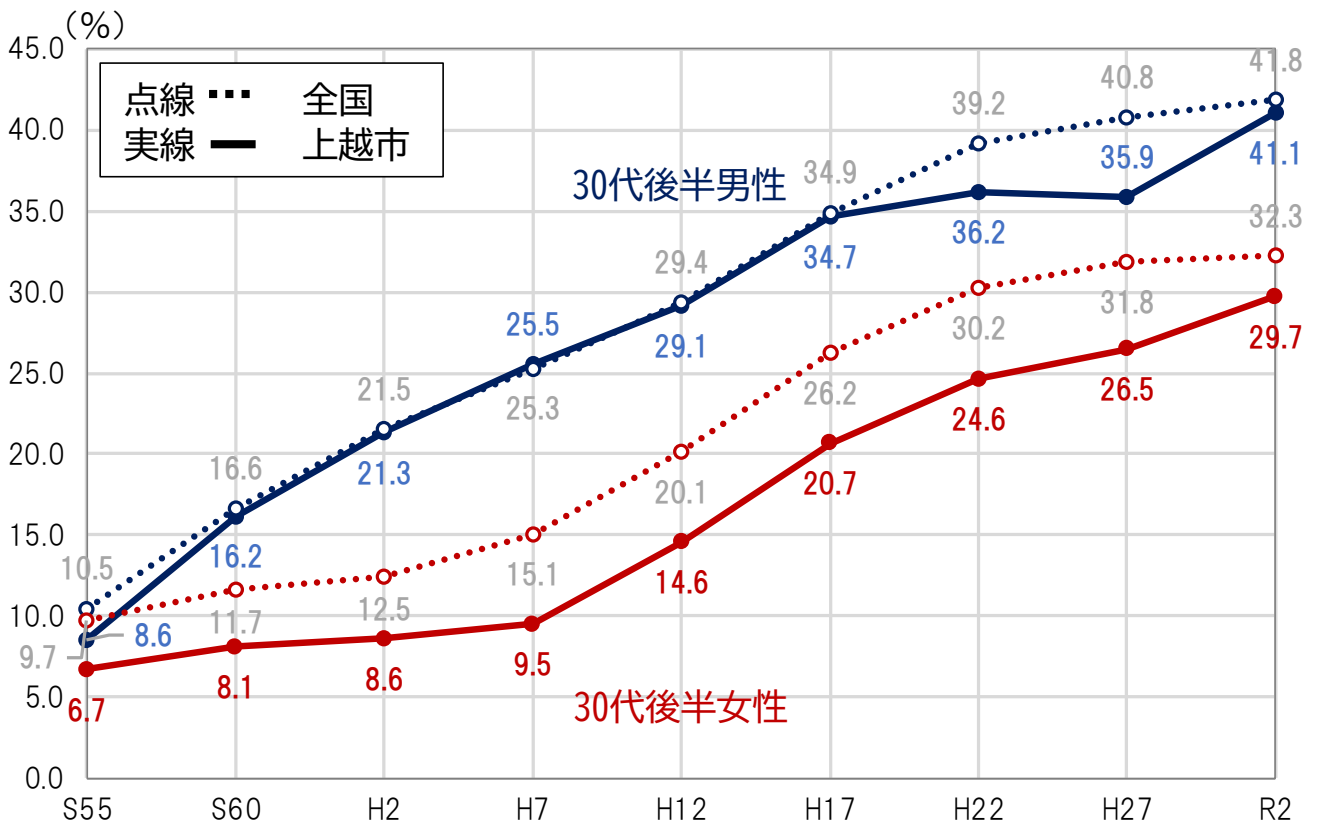
## 2-5 上越市の婚姻件数の推移



出所)新潟県「福祉保健年報」  
備考)昭和61年・平成3年のデータ欠損

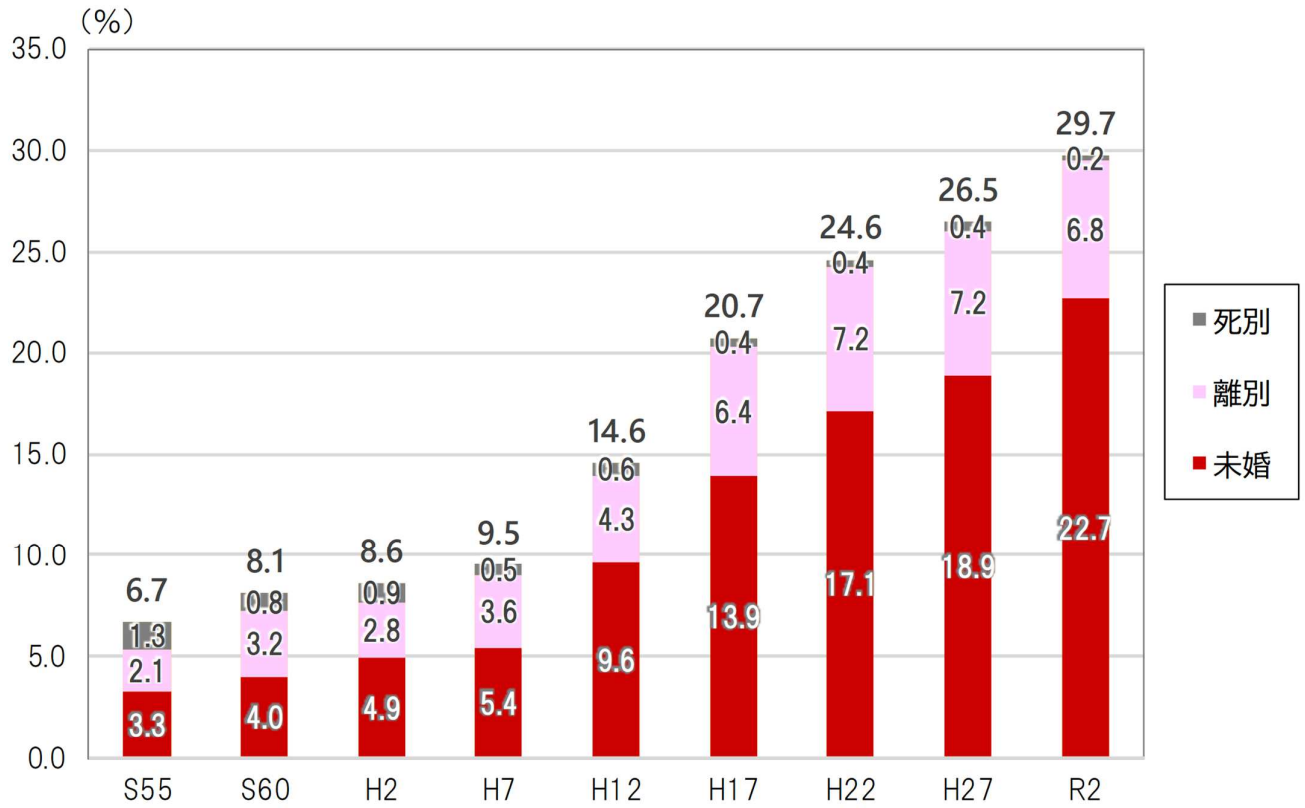
平成10年頃から婚姻件数は減少傾向で推移

## 2-6 30代後半の独身割合の推移



出所)総務省「国勢調査」  
備考)H27以降は不詳補完値

30代後半における独身割合は増加傾向で推移  
出生率の低下との相関関係あり



出所) 総務省「国勢調査」

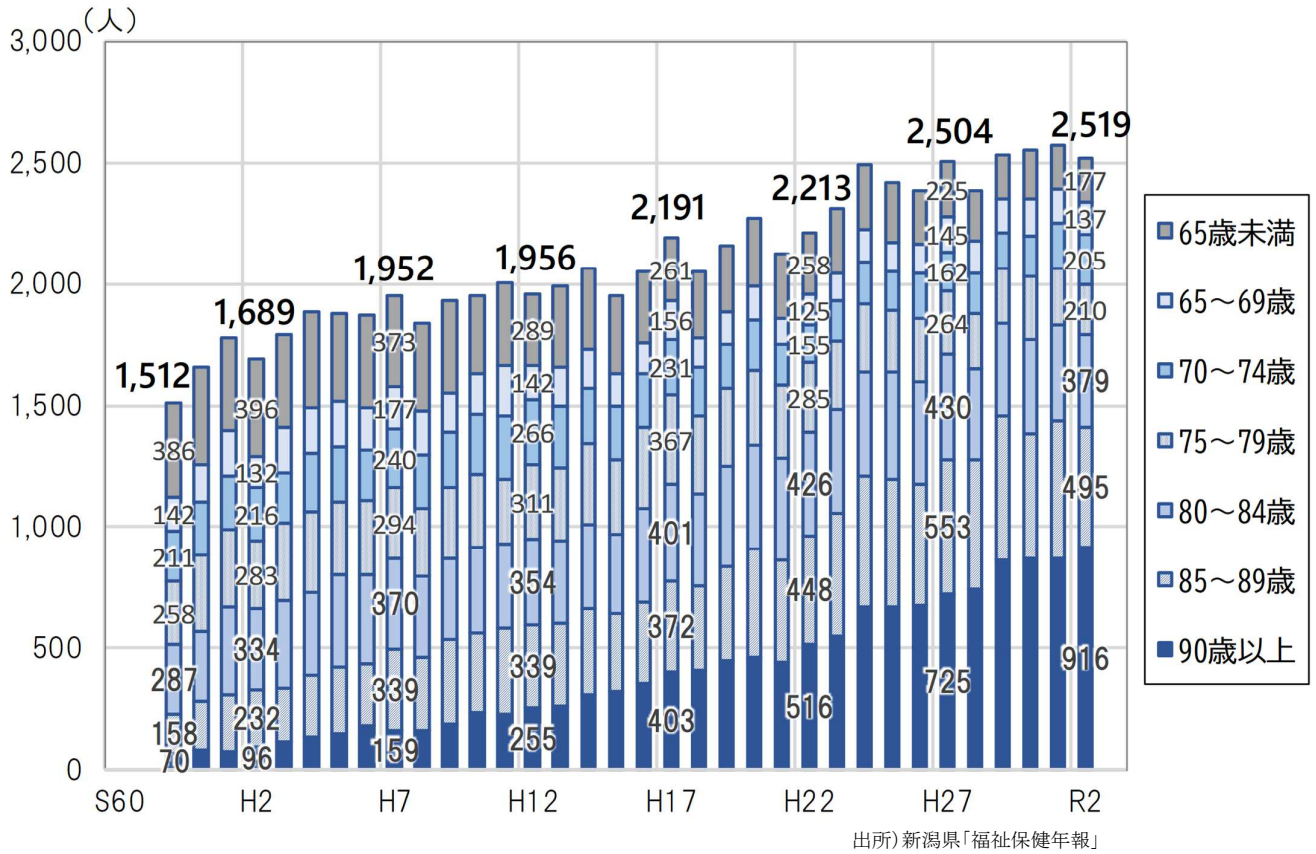
未婚に加えて離別も以前より増加

3

# 死亡

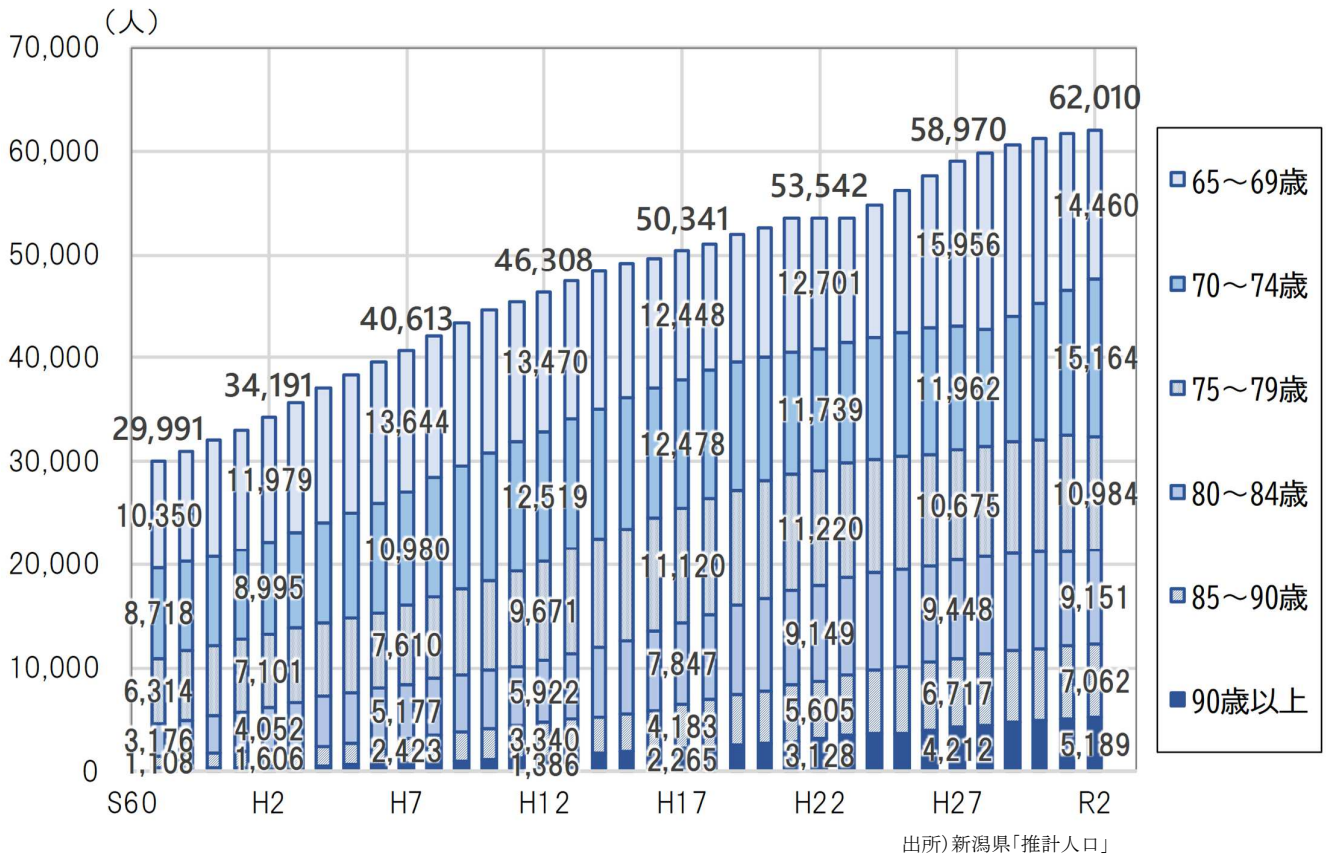
---

### 3-1 上越市の年齢別死亡数の推移

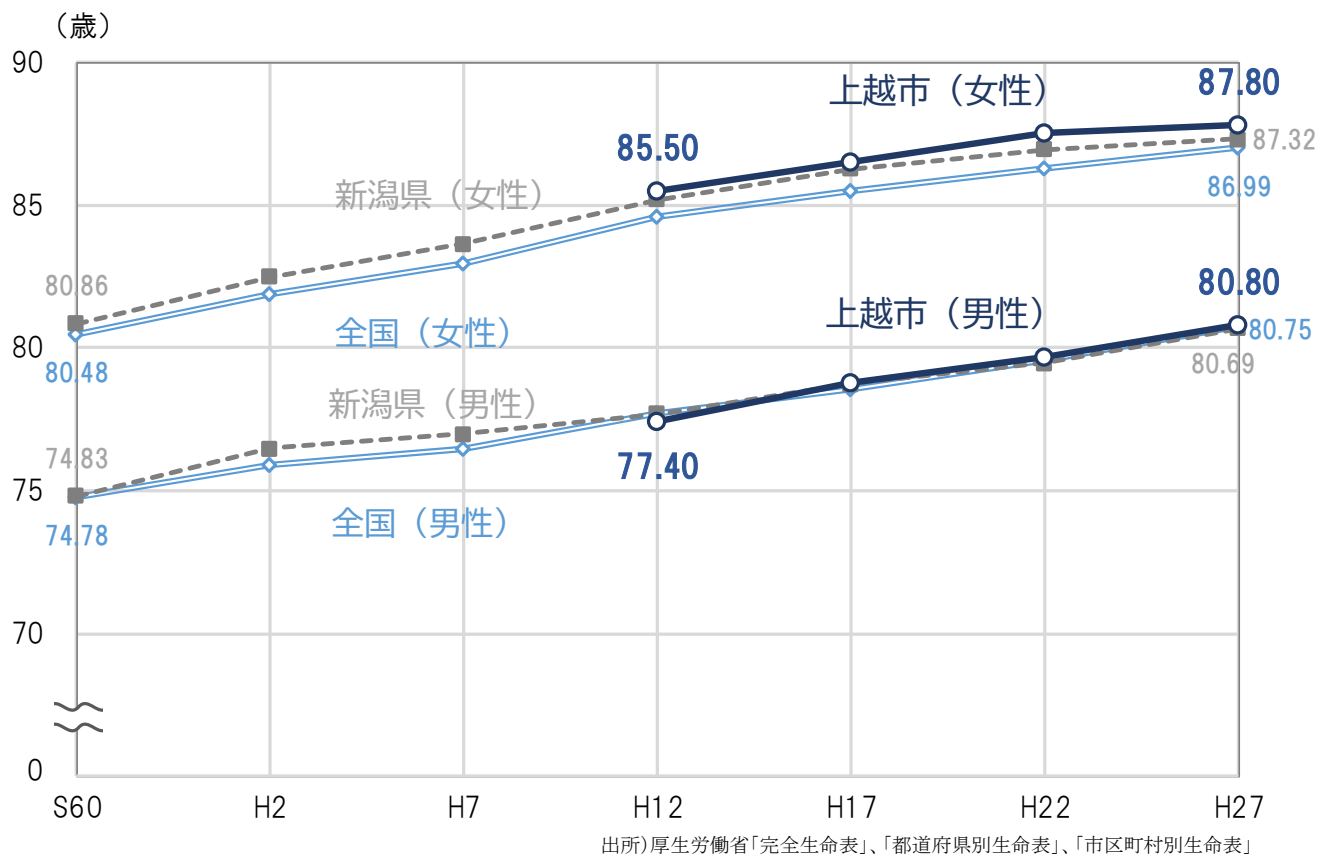


死亡数は増加傾向で推移  
高齢になるほど死亡数が増加している(高齢化によるもの)

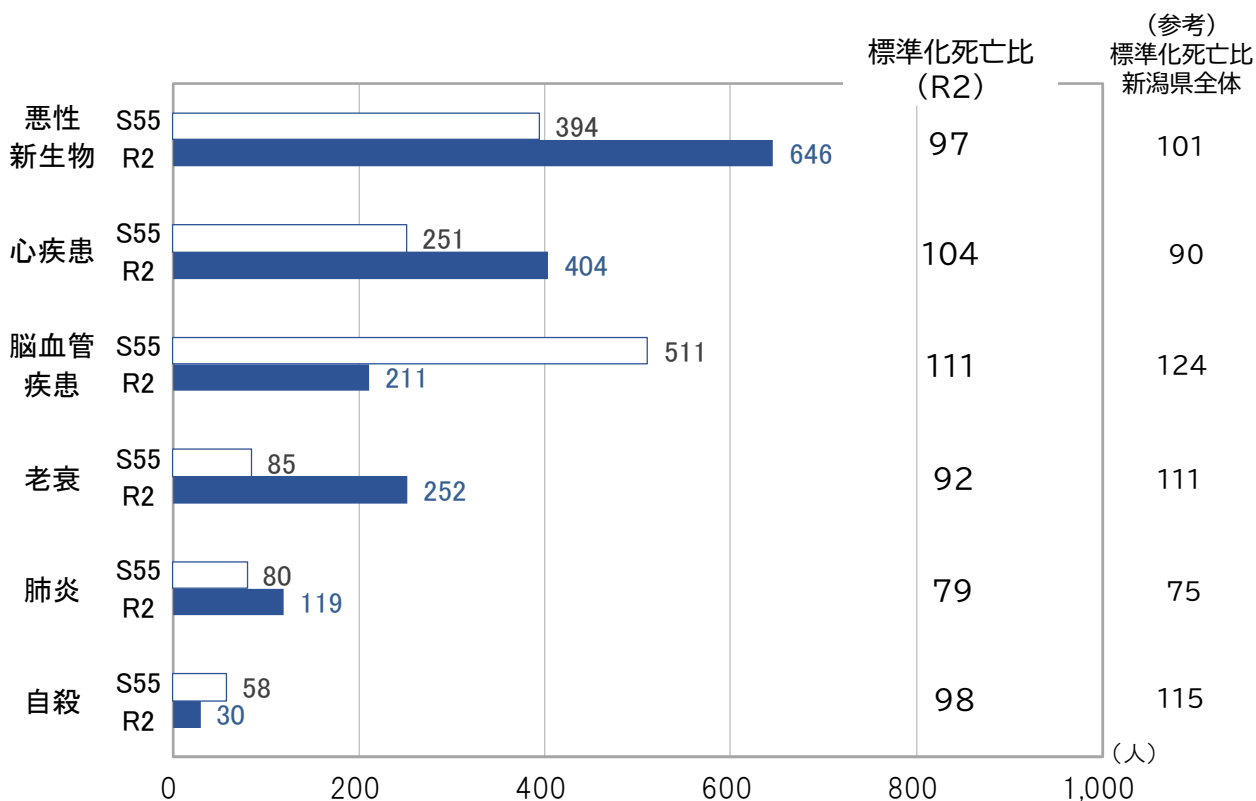
### 3-2 上越市の高齢者人口の推移



団塊世代の高齢化に加え、平均寿命の延伸により、  
特に80歳以上が大きく増加



男女ともに平均寿命は上昇傾向  
 男性は全国と同程度、女性は全国よりやや高い



出所)新潟県「福祉保健年報」、厚生労働省「人口動態調査」  
 (備考)標準化死亡比は全国を100とし、100より大きいと全国平均より死亡率が高く、100より小さいと全国平均より死亡率が低いことを示す

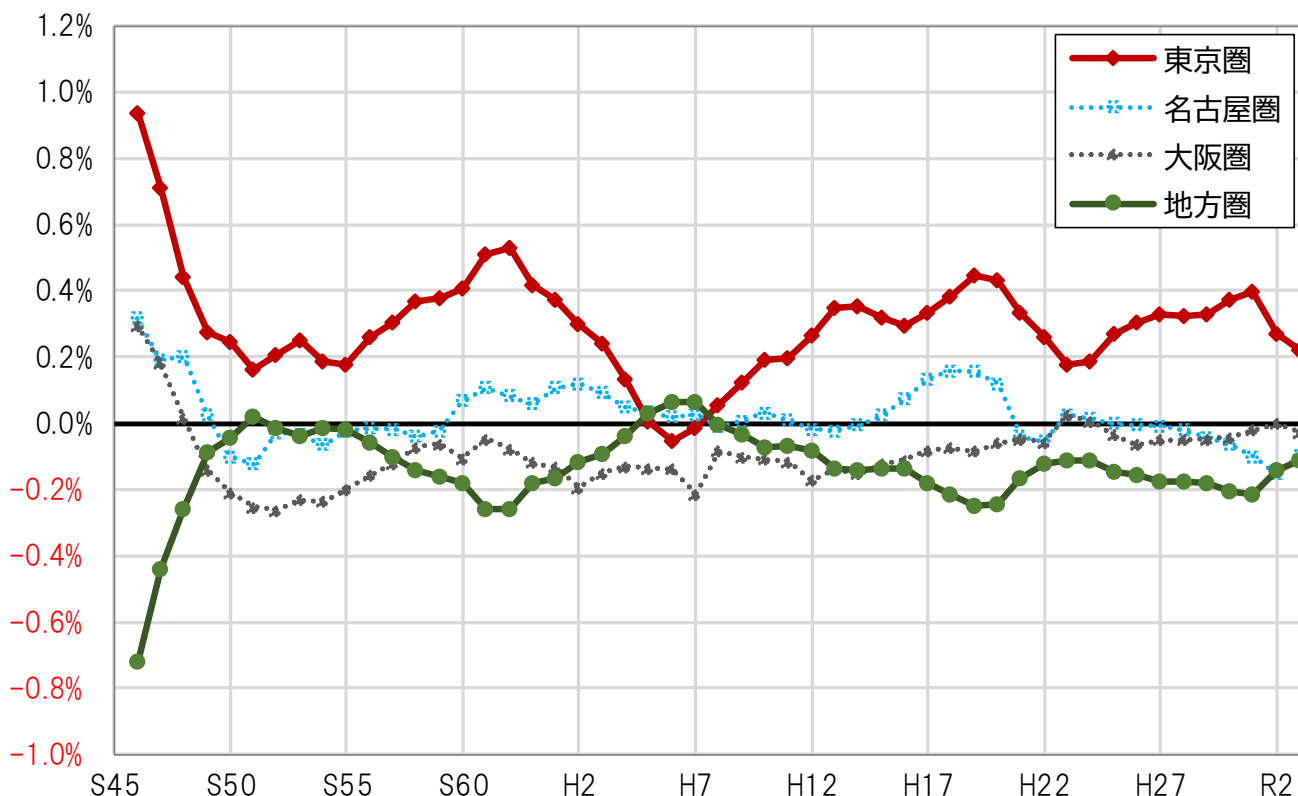
がん(悪性新生物)や心疾患の死亡数は増加しているが全国と同水準  
 脳血管疾患による死亡数は半減しているが、全国よりも死亡率が高い

# 4

# 転入・転出

---

# 4-1 全国都市圏別の人口増減率の推移

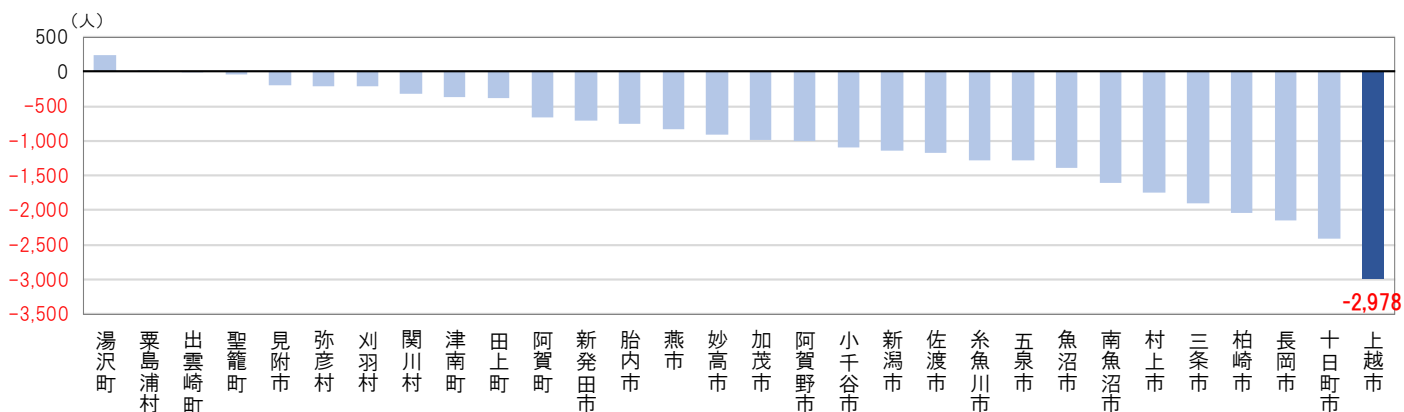


出所) 総務省「住民基本台帳移動報告」

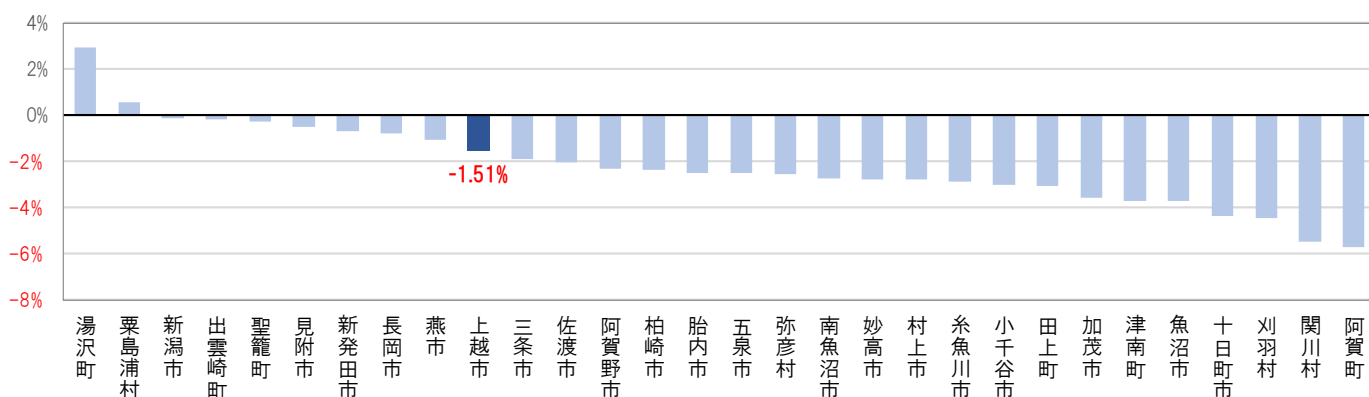
基本的には東京圏への人口集中が継続  
地方圏(上越市を含む)は東京圏と逆の動き

# 4-2 県内自治体の転入超過の状況(H28-R2)

## 【転入超過数(実数)】

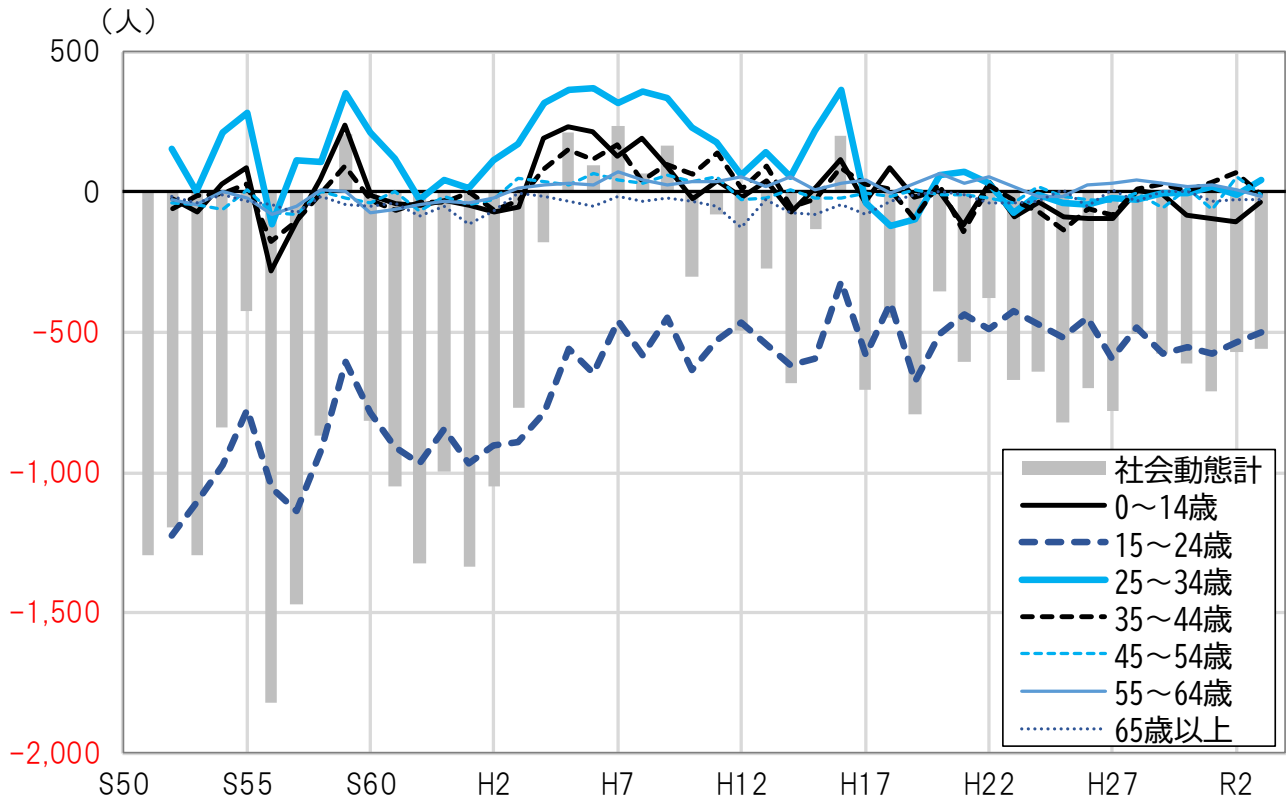


## 【転入超過率(割合)】



県内ではほとんどの自治体が転出超過

出所) 新潟県「人口移動調査」



出所)新潟県「人口移動調査」

15～24歳で転出超過が継続

# 4-4 上越市の性別・年齢別の転入出の動き

## 【男性】

	H23-H27		H28-R2	
	(転入-転出)		転入	転出
0-14歳	▲ 191	▲ 184	↘ 1,123	↘ 1,307
15-24歳	▲ 951	▲ 993	↗ 3,381	↗ 4,374
25-34歳	▲ 225	▲ 90	3,659	↘ 3,749
35-44歳	▲ 208	23	1,930	↘ 1,907
45-54歳	▲ 34	5	↗ 1,129	↗ 1,124
55-64歳	29	75	586	511
65歳以上	▲ 18	39	↗ 474	435
<b>合計</b>	<b>▲ 1,598</b>	<b>▲ 1,125</b>	↗ 12,282	↘ 13,407

## 【女性】

	H23-H27		H28-R2	
	(転入-転出)		転入	転出
0-14歳	▲ 211	▲ 101	↘ 1,133	↘ 1,234
15-24歳	▲ 1,490	▲ 1,749	↗ 1,993	↗ 3,742
25-34歳	14	27	↘ 3,052	↘ 3,025
35-44歳	▲ 174	119	1,450	↘ 1,331
45-54歳	▲ 60	▲ 53	566	619
55-64歳	18	38	337	299
65歳以上	▲ 90	▲ 134	533	667
<b>合計</b>	<b>▲ 1,993</b>	<b>▲ 1,853</b>	↘ 9,064	↘ 10,917

## 【参考】東京都の社会動態

	H28-R2		
	(転入-転出)	転入	転出
0-14歳	▲ 12,129	75,499	87,628
15-24歳	155,282	362,368	207,086
25-34歳	44,593	419,659	375,066
35-44歳	▲ 11,982	167,728	179,710
45-54歳	▲ 4,303	92,190	96,493
55-64歳	▲ 12,536	40,794	53,330
65歳以上	▲ 20,059	30,731	50,790
<b>合計</b>	<b>138,866</b>	1,188,969	1,050,103

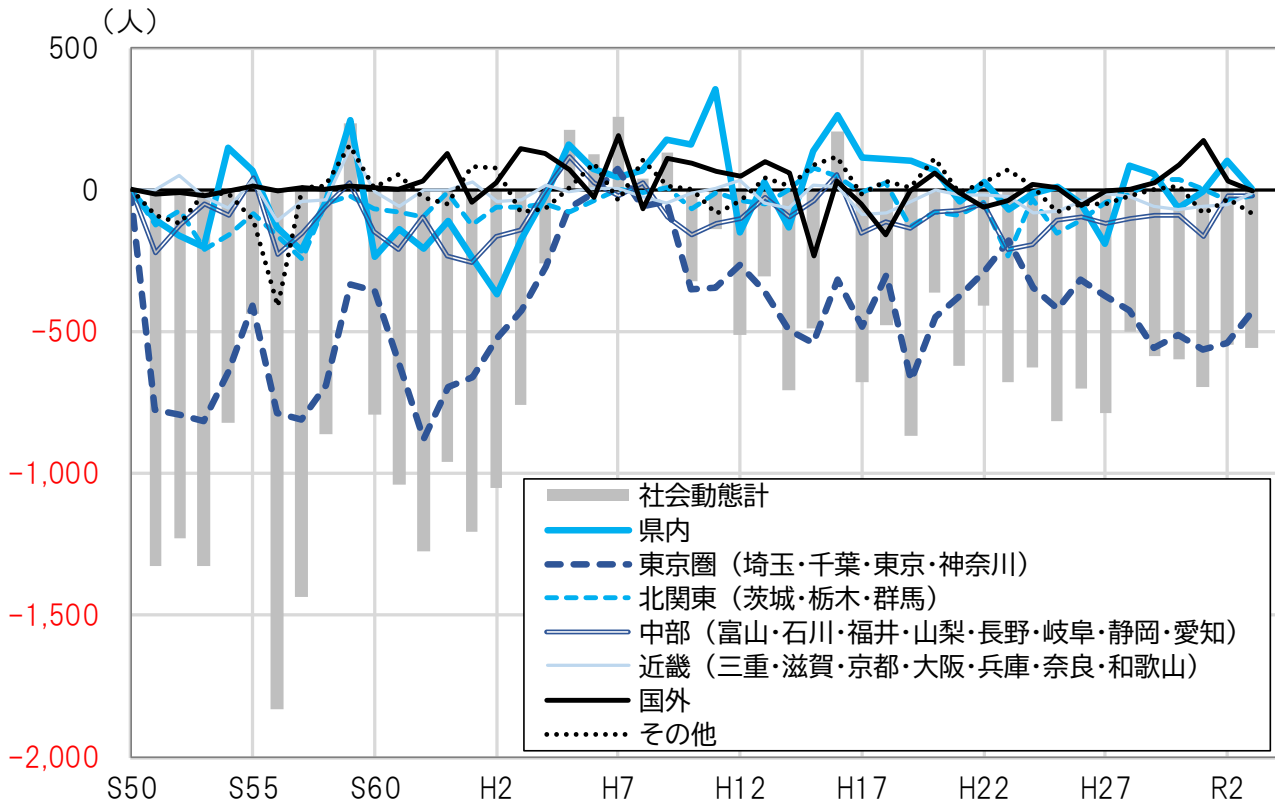
	H28-R2		
	(転入-転出)	転入	転出
0-14歳	▲ 9,419	73,086	82,505
15-24歳	183,923	351,406	167,483
25-34歳	48,437	376,495	328,058
35-44歳	▲ 270	133,347	133,617
45-54歳	2,611	63,566	60,955
55-64歳	▲ 8,081	27,901	35,982
65歳以上	▲ 14,665	44,837	59,502
<b>合計</b>	<b>202,536</b>	1,070,638	868,102

出所) (上越市)住民基本台帳をもとに上越市創造行政研究所作成、(東京都)総務省「住民基本台帳移動報告」  
備考)上越市と東京都の数値は集計期間等一部条件が異なる

若年女性に大幅な転出超過



# 4-5 上越市の地域別社会動態の推移



出所)新潟県「人口移動調査」

東京圏に対する転出超過が継続  
近年は拡大傾向だったが、R2以降はやや縮小

# 4-6 上越市の地域別の転入出の動き(H28-R2)

転入元・転出先	転入数 (+)	転出数 (-)	増減数 (社会動態)
<b>県内</b>	9,062	8,890	<b>172</b>
糸魚川市	923	518	405
妙高市	1,673	1,317	356
十日町・魚沼圏	782	512	270
柏崎・長岡圏	1,804	1,966	△ 162
新潟圏	2,881	3,577	△ 696
その他県内	999	1,000	△ 1
<b>県外</b>	12,115	15,210	<b>△ 3,095</b>
東北・北海道	1,080	1,161	△ 81
北関東 (群馬・栃木・茨城)	1,633	1,611	22
東京圏 (一都三県)	4,154	6,752	△ 2,598
長野県	971	1,193	△ 222
北陸	1,053	1,144	△ 91
中部 (長野県を除く)	814	970	△ 156
近畿	678	941	△ 263
その他国内	581	612	△ 31
国外	1,151	826	325
その他	138	193	△ 55
<b>合計</b>	<b>21,315</b>	<b>24,293</b>	<b>△ 2,978</b>

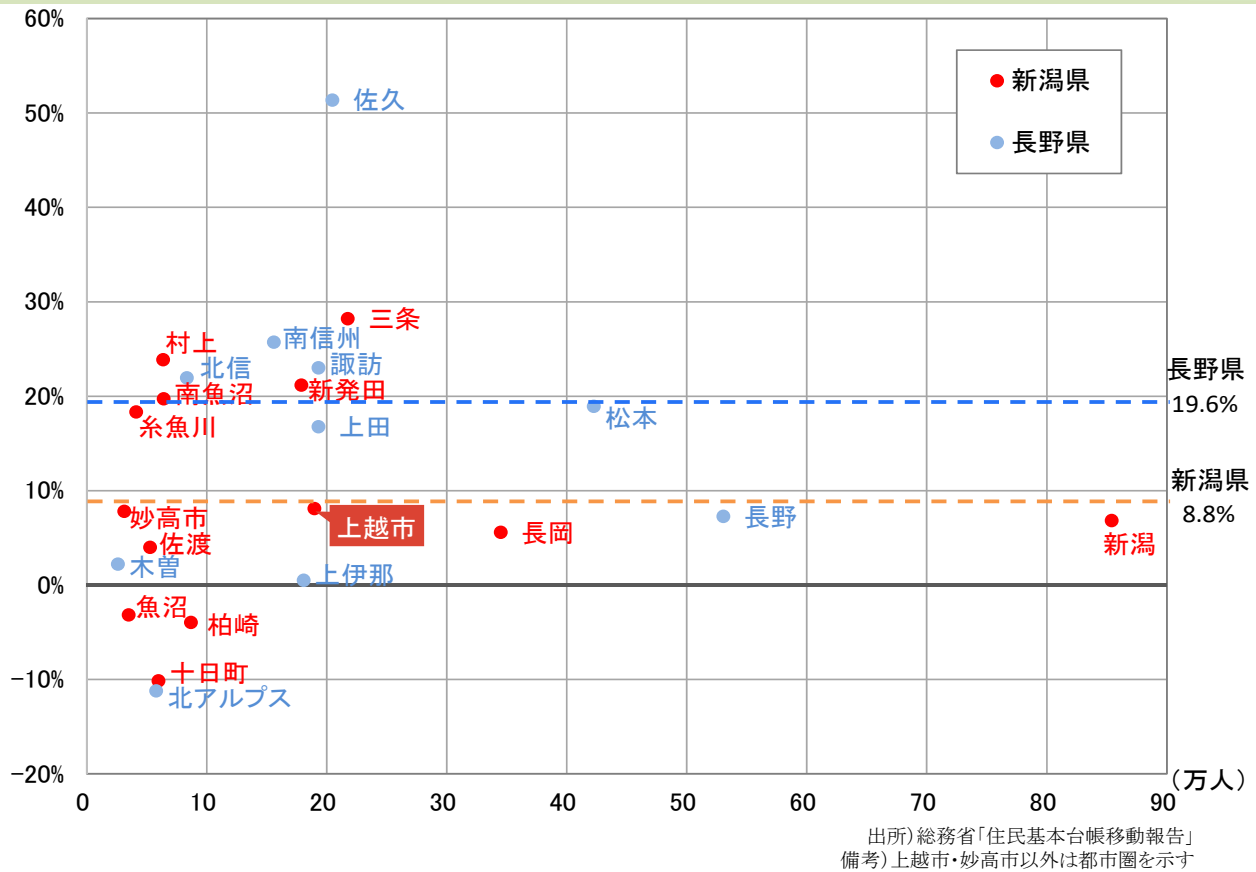
周辺市町村からは  
転入超過

新潟市を中心とする圏域  
や東京圏への転出超過が  
多い

国外からの流入増は  
近年の動き

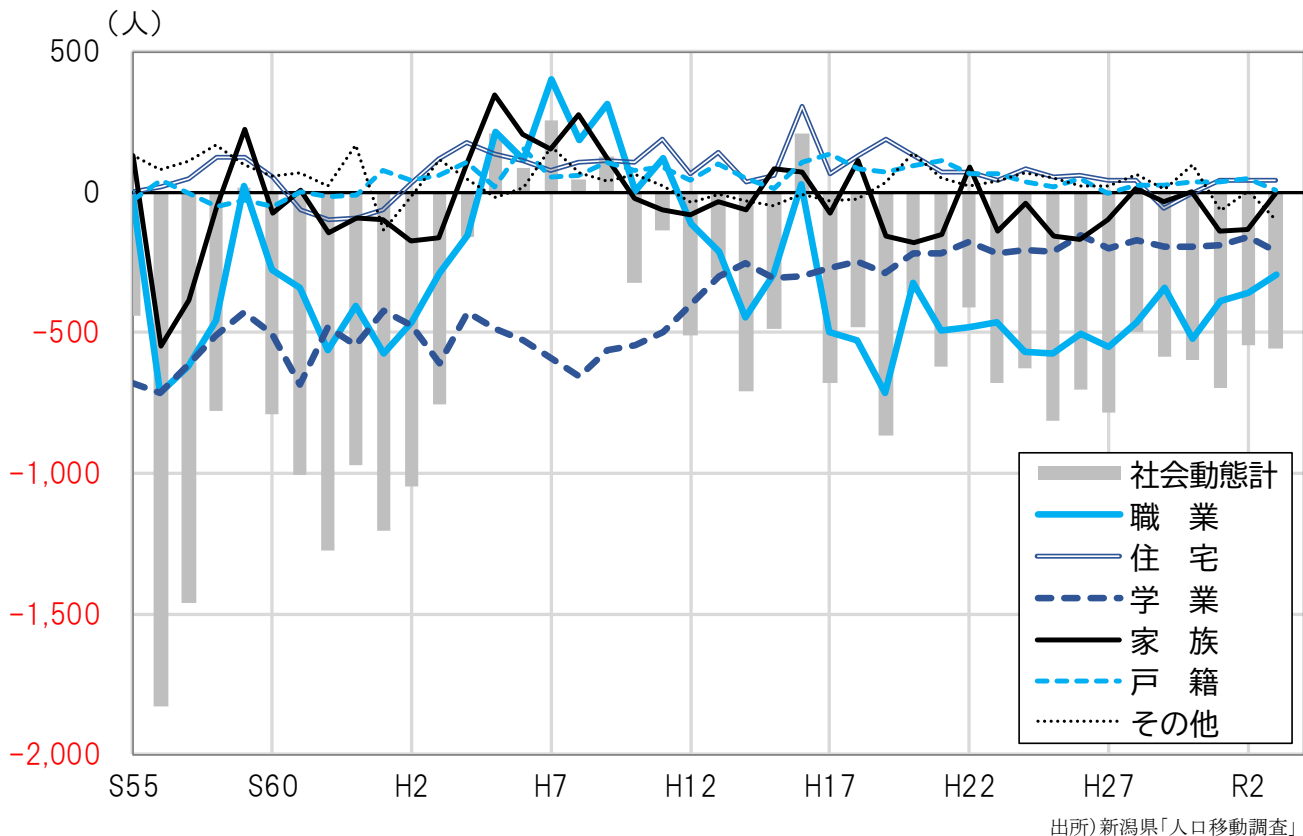
出所)新潟県「人口移動調査」

# 4-7 東京都からの転入数の増減率(R1→R3)



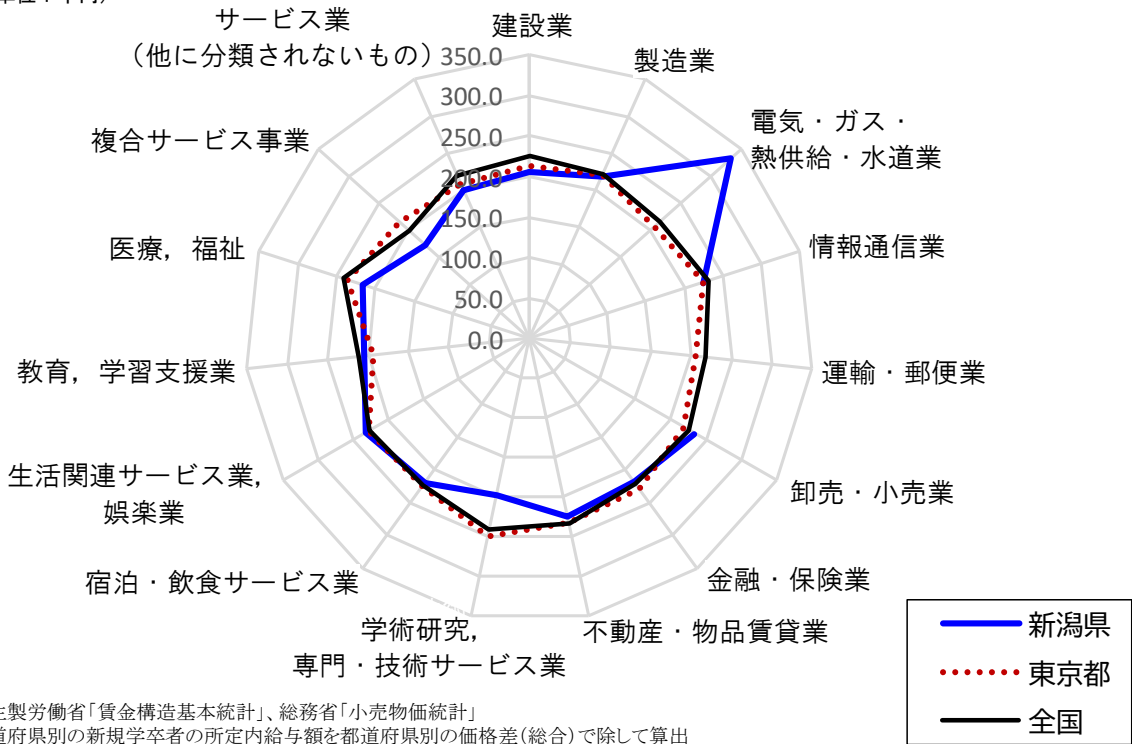
コロナ禍以降、東京からの転入は長野・新潟の一部で増加傾向  
ただし、上越市での影響は今のところ軽微

# 4-8 上越市の理由別社会動態の推移



職業を理由とした転出超過の影響が最も大きい

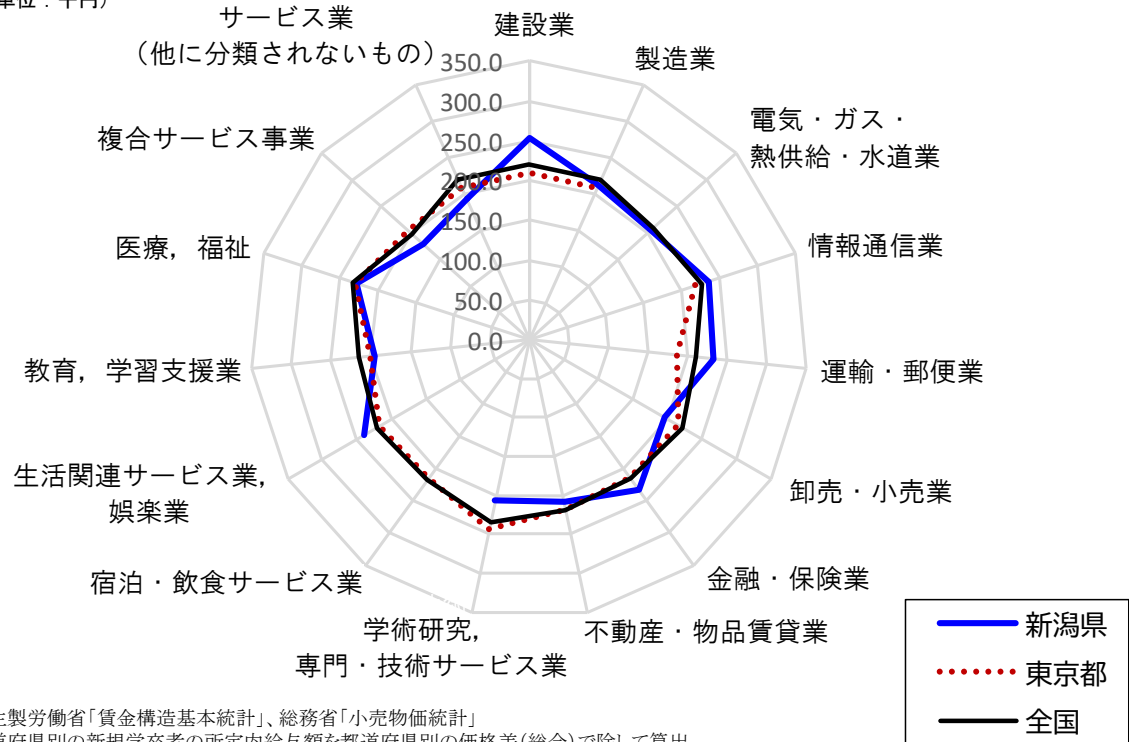
【男性】(単位:千円)



出所)厚生製労働省「賃金構造基本統計」、総務省「小売物価統計」  
備考)都道府県別の新規学卒者の所定内給与額を都道府県別の価格差(総合)で除して算出  
新潟県の「運輸業、郵便業」のデータなし

「学術研究、専門・技術サービス業」や「複合サービス事業」の水準は東京より低いが、全体的には大きな賃金格差は見られない

【女性】(単位:千円)

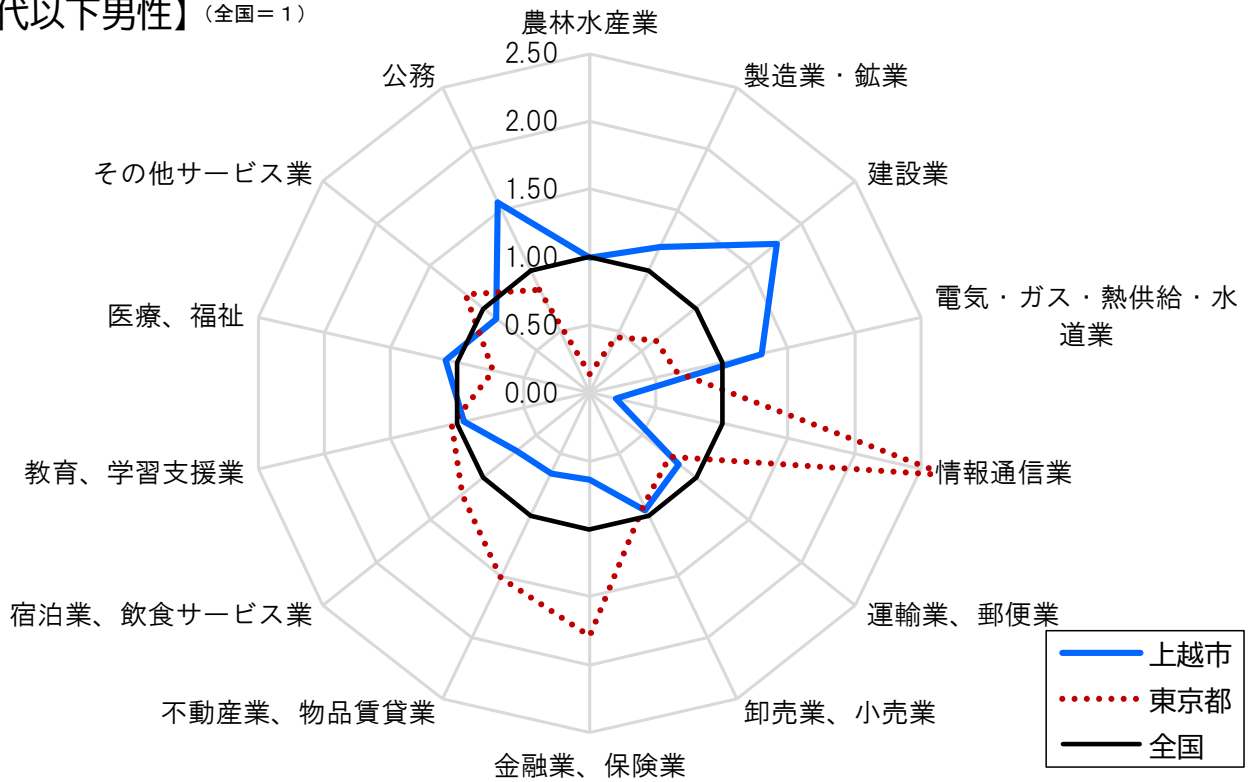


出所)厚生製労働省「賃金構造基本統計」、総務省「小売物価統計」  
備考)都道府県別の新規学卒者の所定内給与額を都道府県別の価格差(総合)で除して算出  
新潟県の「宿泊業、飲食サービス業」のデータなし

新潟県の「電気・ガス・熱供給・水道業」の水準は男性と異なるが男性同様、東京との大きな差は見られない

## 4-11 産業別就業者割合(H27 30代以下男性)

【30代以下男性】(全国=1)

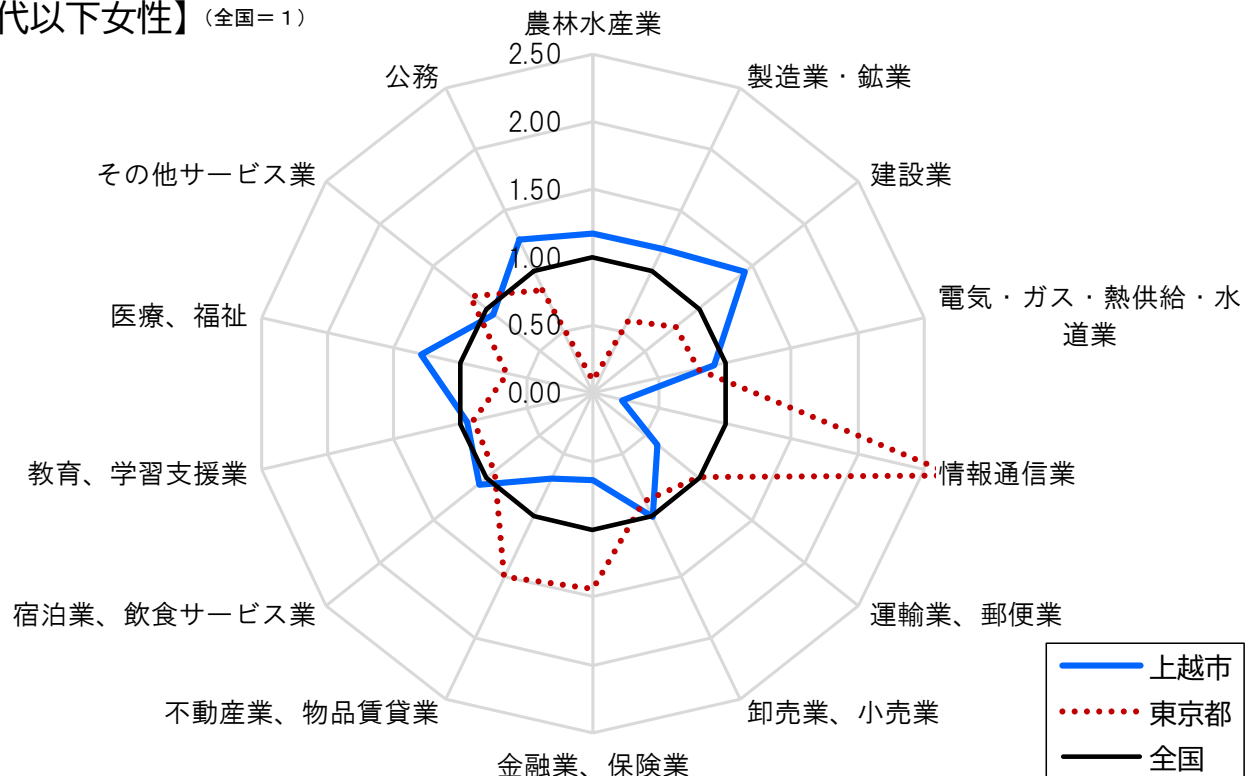


出所)総務省「国勢調査」

「情報通信業」や「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」に従事している人が全国・東京に比べて少ない

## 4-12 産業別就業者割合(H27 30代以下女性)

【30代以下女性】(全国=1)



出所)総務省「国勢調査」

男性同様、「情報通信業」や「金融業、保険業」「不動産業、物品賃貸業」に従事している人が全国・東京に比べて少ない